

土壌・地下水の自主調査結果について

日本ガイシ株式会社（社長：大島卓、本社：名古屋市）は知多事業所（愛知県半田市）の土壌と地下水を自主的に調査した結果、環境基準を上回る有害物質が検出されたため、本日調査結果を行政当局へ報告しました。

1. 調査場所

- 1) 名称 日本ガイシ株式会社 知多事業所 厚生施設敷地（厚生会館、駐車場）
- 2) 所在地 愛知県半田市旭町1丁目39番地の1（周辺地図添付）

2. 調査結果

1) 土壌

特定有害物質	基準超えの最大値 (環境基準値に対する倍率)	環境基準値	超過地点数 ／調査地点数
ふっ素及びその化合物	7.5mg/L (9.4倍)	0.8mg/L 以下	10／14

2) 地下水

特定有害物質	基準超えの最大値 (環境基準値に対する倍率)	環境基準値	超過地点数 ／調査地点数
ふっ素及びその化合物	3.0mg/L (3.8倍)	0.8mg/L 以下	12／14
ほう素及びその化合物	1.3mg/L (1.3倍)	1.0mg/L 以下	4／14

3. 汚染原因

厚生施設敷地では当社が取得する前の1968年から85年まで軸薬・ホーロー原料等の製造会社（特定有害物質等を使用）が操業していました。操業当時、製造に用いたガラス原料等に有害物質が含まれており、それらが地下に流出、浸透したものと推定される土壌、地下水の汚染については、2006年8月に行政当局へ報告するとともに汚染について当社HPで公表しました。同時に汚染された土壌・地下水の浄化対策を行い、2011年10月に、対策の完了を行政当局に報告しております。当社が同地を取得した1985年以降、厚生施設および駐車場として利用しており、有害物質は取り扱っていないため、今回の汚染原因は不明です。

4. 対策の概要

応急の措置として、有害物質が検出された地表面の大部分を既にアスファルト等で覆っており、土壌の飛散や雨水の浸透を防止する対策を実施済みです。また、敷地境界付近に設置した観測井戸で今回検出された有害物質の地下水濃度や流向の測定を行い、汚染物質の拡散がないかを継続的にチェック致します。今後地下水汚染の敷地外への流出を防止することを目的として、薬剤注入による透過性地下水浄化壁^{*1}もしくは遮水壁^{*2}を設置します。設置後は定期モニタリングを実施し、有害物質の流出の有無を継続監視します。

今後も行政当局のご指導の下、適切な対策を実施していきます。

※1 透過性地下水浄化壁・・・対象地点に並べた複数の井戸から薬剤を注入することで地下水は透過するが含まれる有害物質は吸着する「壁」（浄化壁：井戸周辺の土壌が薬剤を含んだ状態）を作り、地下水を浄化し有害物質の拡散を防止する設備

※2 遮水壁・・・対象地点に鋼矢板（遮水壁）を埋設し、遮水壁で囲まれた地点の地下水の流出を封じ込めて有害物質の拡散を防止する設備

<調査場所の周辺地図>



出典：国土地理院の地理院地図（電子国土 Web）（<https://maps.gsi.go.jp/>）に
当社事業所の位置を追記して掲載